
経営学部教授 柳田仁先生を送る

経営学部長 後 藤 伸

本学部教授柳田仁（やなぎた ひとし）先生は、2011年5月に満年齢70歳を迎えられて、2012年3月末日をもって神奈川大学を定年退職されます。経営学部『国際経営論集』第53号を柳田先生の退職記念号として上梓するとともに、この巻頭言において柳田先生の研究教育業績を簡単ながらご紹介することで、学部一同よりの惜別の辞とさせていただきます。

柳田仁先生は、1960年4月に中央大学経済学部に入學され、1964年3月に同学部をご卒業されています（経済学士）。同年4月には中央大学大学院商学研究科に進まれるとともに、家業や会計事務所に勤務されました。中央大学大学院商学研究科の修士課程を修了した後（商学修士）、1968年4月に早稲田大学大学院商学研究科修士課程にふたたび入學されています。さらに1971年4月には同大学院商学研究科博士課程に進まると同時に、東海大学短期大学等で非常勤講師を勤められ、教育職歴の第一歩をあゆみはじめられました。1975年3月に早稲田大学大学院商学研究科を単位取得退學され、翌4月からは名古屋学院大学経済学部にて専任講師として赴任されています。1978年4月には同大学助教授職、さらに1984年4月には教授職にそれぞれ就任されています。

神奈川大学とのかかわりは、1986年から神奈川大学短期大学部商学科の非常勤講師として講義をご担当されたのが最初でありました。1989年4月には、神奈川大学経営学部教授として赴任され、爾来23年間におよぶ神奈川大学との深いかかわりを育てられました。この間の1993年からは神奈川大学大学院経営学研究科の教授職に就かれ、大学院生の教育指導にもご活躍されてきました。先生の学部・大学院での講義科目は簿記原理、原価計算論、管理会計論、経営分析論、税法入門、企業会計論特講など会計学に関わる分野であり、このほか学部や大学院での演習を長らくご担当いただいております。

本務校である神奈川大学のほか、母校の中央大学、東海大学、立正大学などで非常勤講師として講義に当たられ、また中国の遼寧科技大学の特座教授も勤められています。前任校の名古屋学院大学で1982年より1年間西ドイツに在外研修の機会を得られたのに続き、1994年からはドイツのハイリッヒ・ハイネ大学に1年間客員教授として研究生活を送られています。これら長年にわたる研究活動は、現在までに単著だけでも5冊、学術論文は70点余という輝かしい成果として結実しております。

先生の所属学会は日本会計研究学会、日本原価計算研究学会、日本社会関連会計学会、国際会計研究学会、日本税法学会など7学会におよび、それぞれの学会での研究発表はもとより、学会の理事・監事や評議員の要職を歴任されています。そのほか日本原価管理士会理事長、NPO法人シンプルライフ普及センター理事長、平塚市文化財団評議員および平塚市観光協会理事などに就任され、地域住民の啓発や地域振興にも貢献されておられます。また学内にあっては、2001年より2年間神奈川大学国際経営研究所の所長を、2005年より同じく2年間神奈川大学法人評議員をそれぞれ勤められています。さらに学部内にあっては1998年より経営学部インターンシップ委員会委員長

に就任され、草創期のインターンシップの拡充に傾注されております。

ご承知のように、柳田先生の事に処する態度は中庸であり、その性格は穏当であります。しかしながら、こと研究にいたると「勉強していますか」、「論文を書いていますか」と、勉勵の徒となるのを学部と同僚はしばしば体験されたことと存じます。先生におかれては退職後も、経営学部において会計学関連の講義を非常勤講師として受け持っていただくことになっております。先生には引き続きご指導とご鞭撻をいただけることをわれわれ学部一同の喜びとするとともに、先生の一層のご活躍をこころから期待して擱筆する次第です。